

明世地区 まちづくりだより

過ぎてしまえば早いもので、会長の役をいただいてから2年の任期が経とうとしています。

言うまでもなくこの2年間は新型コロナウイルスの影響で、活動が思うような形でできませんでした。

そんな中でも行事をただ単に中止にするだけでなく各委員会で話し合い、工夫を凝らしてそれなりに対応できた事が大変印象に残っています。まちづくりのメンバーを始め、支援職員のサポートやなによりも地域住民の皆さんのまちづくり活動へのご理解とご協力に支えていただいたこと、本当に有り難うございました。

(加納 秀樹)

各委員会委員長より1年を振り返って

1) ウォッチング委員会 (安藤 嘉章)

・コロナ禍で行動が制限される中、ウォッチング委員会では、明世地区の防災倉庫を見てもらい、防災意識を高めてもらう活動ができました。広い範囲でしたが、歩いて回る方が予想以上にみえて、気分転換や健康づくりにもなったのではないのでしょうか。来年度も、新型コロナの影響が懸念されますが、安心して楽しく暮らせるまちづくりを目指していきたいと思います。



ウォッチング委員会メンバー



防災倉庫

2) スポーツ委員会 (安藤 功)

・今年度は新型コロナの対策をしっかりとし、スポーツ委員会の代名詞ともなったノルディックウォーキングを7月より始め、12月まで続けることができました。一方、3月に予定していた多々良恵子氏による健康講座は、まん延防止等重点措置の適用を受け残念ながら中止となってしまいました。来年度においても、まだまだ安心できる様な状況でもないことから、小単位で地区ごと(戸狩、月吉、山野内)による実施を計画して参りますのでよろしくお願いいたします。



3) 青少年育成委員会 (小林 博明)

・コロナ禍により、各委員会の行事がほとんど中止となる中、ホタル育成事業として、小学校、中学校、高校で、ホタルの勉強会に取り組んだほか、ホタルの観賞会、狭間川でのカワナ採集、里親の開拓など、多彩で多忙な1年でもありました。

青少年育成市民会議では、モデル地区として活動成果の発表を2年に亘り活動の準備をしてきましたが、今年度も中止となってしまったため、残念ながら、データでの提出のみとなってしまいました。

明世小学校



講師の奥村 了さん

北中学校



中京高校



4) 福祉委員会 (大森 健生)

・令和3年度は地域の福祉団体(区長会、民児協、社協支部、長寿会、まちづくり)と共催し、高齢者を対象とした「健康講話～yakult おなかの元気教室～」を開催しました。

(年2回の講話の開催予定がコロナ禍により1回のみとなりました。)



骨密度を測定

- ・令和4年度は、今年度の事業計画を継承し、地域の福祉団体との連携を一層強化し、高齢者の健康づくり（閉じこもりを防ぎ、出かける機会をつくる活動の推進）や地域の見守り（各区・各組単位での福祉活動の推進）を目的とした「いきいきサロンの推進」と「健康講話の開催」を計画いたします。

山野内公民館▶



5) 防犯・防災委員会（成瀬 茂）

- ・防犯・防災委員会では安全で安心して住めるまちづくりの推進のため、青色防犯パトロールの他、1月のどんと焼きの際には、市消防本部よりご協力をいただき、子どもたちによる消火器を使つての消火訓練やAEDによる心臓マッサージ体験などを計画致しましたが、新型コロナウイルスの影響で残念ながら全て中止となってしまいました。来年度の活動にあたりましては感染症対策に十分に配慮した上で、安心して参加頂ける様、イベントのご提案をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

6) 花の苗配布事業（まちづくり会長直轄）

- ・今年で5年目を迎えることとなりました。毎年、年2回の配布を、明世小学校と明世町内3地区の皆さんは楽しみにしてくれています。春には色鮮やかなマリーゴールド、ペゴニヤ、バーベナ、サルビアなどを、また秋にはパンジー、ビオラなどが綺麗な花びらを咲かせ、見る人の心を和ませてくれています。



明世小学校



7) 広報委員会活動（可知 勝宏）

- ・新型コロナウイルスの2年目となった今年度でしたが、あきよまちづくりだよりは年4回計画通りの発行が出来ました。毎号、紙面造りには苦勞させられていますが、昨年度からのホタル育成事業に絡み、話題には欠くことなく、大いに助かりました。また、地域の話題として明世小学校に関する話題や、中京高校生による市民公園内喫茶楽でのアート紹介など、多彩な紙面作りに取り組んで来ました。来年度は明世小学校とのコミュニティ・スクールも始まるため、楽しい紙面造りが出来る様取組んで参ります。

夢づくり地域交付金ステップアップ事業について

◆ホタル専用水路の工事は無事に終了！

今年度の工事は、ホタルの幼虫が孵化するまでの間、住み続ける用水路を、木製からコンクリート製にして新規に作り直しました。用水路への泥流入防止の役割を果たす沈砂池もあらたに設け、更には用水路の延長工事も同時に行ないました。今ではすっかり見違えるほど立派な用水路へと生まれ変わり、今年の3月14日に行われたホタルの幼虫放流では、孵化する前のホタル達も、きっと居心地が良いだろうと思います！

また、最後の工事として、電気設備を新規に設置し、ホタルの里“福”と命名した、ホタルの専用水路入り口への看板を設置いたしました。放流会の数日前には、まちづくりの委員10名により、休日にも関わらず用水路へと下りる階段の暫定工事を行ない、2時間程でしたが見事に仕上がりしました。この甲斐あって、放流会に参加された多くの皆さんが怪我することなく安全に利用ができました。



◀階段を作成



▲電気設備を設置

中京高校保育クラス生徒さんによる街角アート

市民公園内にある喫茶楽(らん)店内の、壁面ガラスをキャンパスにして、「POSCA」と言う太さが何種類もある専用のペンを上手に使いこなし、季節ごとの素敵な絵を描いてくれています。最近では、来店されるお客様の多くが、季節ごとに変わる絵を、心待ちにしてくれているそうです。

保育クラスの皆さん、いつもありがとう！



▲冬バージョン

◆ホタルの里 福 入り口の看板 (中山尚子氏作)

入口の看板▶
(Size/910mm×1820mm)

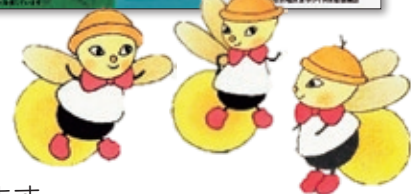


▶看板デザイン



◆あきよホタルの里 福 イメージキャラクター (中山尚子氏作)

このキャラクターは、明世ホタル育成事業を共に進めていく仲間たちとして、看板の作者の中山尚子さんに考案いただいたものです。今後、あきよホタルの里“福”の宣伝リーフレット、ホタル観賞会の案内チラシ、明世まちづくりだより、記念品等々、いろいろな方法で使用していければと考えています。



しかしながら、この子達にはまだ名前がありません…この先も名無しの権兵衛さんでは可哀そうなので、新年度、明世小学校区にお住まいの方を対象に、名前を募集いたします。募集にあたっての詳細は、別途町内回覧にてお知らせをいたしますので、よろしくお願いいたします。

【人】明世小学校が、『岐阜県 ふるさと教育表彰』を受賞!

◆令和4年2月1日 県教育委員会教育長より表彰

この賞は、地域の自然や歴史・伝統・文化・産業を学び人々とのふれあいを深めながら、清流の国ふるさと岐阜を愛し誇りに思う心を育てていくことへ、どれだけ実践できたかというものです。今年度、明世小学校では、各学年の取組として、2年生では「校区探検」(化石博物館、サイエンスワールド等)、3年生では「瑞浪市の自慢」(田中泥薬師)、5年生では「明世の環境」(ホタルの学習等)、6年生では「地域の自然や歴史」(地層見学)、全校では、「明世小 水族館」(校内へのホタル水槽設置、里親への取組)、以上が評価され受賞につながりました。また教育活動以外でも、地域ボランティアによる草刈り、花壇の手入れ、登下校の見守り等、地域との結びつきが多く場面で見られたことと、来年度よりスタートするコミュニティ・スクールに地域活動を多く位置づけするよう計画が進められていることなども併せ評価対象となりました。



吉田校長・安藤教頭



▶表彰状

コミュニティ・スクールへの取組み

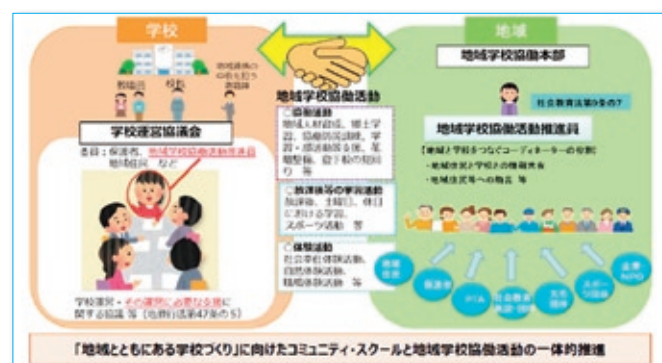
来年度より明世地区でも正式スタートとなります。しかしながら、未だコミュニティ・スクール(以下CSと呼ぶ)ってなに?とおっしゃる方の方が多いと思われます。そこで、あらためましてCSとは…を簡単に以下説明をさせていただきます。

①CSとは学校運営協議会を設置した学校のことをいいます。

②学校運営協議会とは

- ・校長の作成する学校運営の基本方針を承認する。
 - ・学校運営について学校、教委に意見を述べるができる。
 - ・教職員の任命について、規則の定めることについて教委に意見を述べるができる。
- の3点の役割があります。

③CSでは、目指す子どもの姿を地域と学校が共通で認識し、地域と学校が協働して活動(地域学校協働活動)に取り組み、その目指す子ども像を実現していきます。



コミュニティ・スクールの解説図

④地域学校協働活動では、地域の方々も「教育の当事者」という意識で取り組んでいくことが重要ポイントとなります。

簡単に言えば、これまで、行事や活動に取り組んできましたが、児童に接していくとき「目指す子ども像」を意識していくことです。今まで取り組んできた活動や行動において、児童と関わる時の意識を変え、目指す子ども像に少しこだわっていくことです。

子どもを中心に地域と学校が協働して取り組むことで、地域の活性化や、児童にとって人との関りがより深まります。

また、地域の方々主体的に児童に接していただくことで、地域の方々のやりがい生まれてきたり、また学校の負担軽減にもつながったりすることが期待できます。

CSは地域、家庭、学校、そして子ども達の成長すべてにプラスになる関係となることを願っています。

ホタル幼虫放流会（3月14日 ホタルの幼虫放流会イベント）

- ・今年度の交付金事業ステップアップにより、新しく生まれ変わったホタルの用水路と、市民公園内を流れるホタルのせせらぎ川にて、6月に飛び交うこととなるゲンジボタルの幼虫放流イベントが、3月14日盛大に開催されました。

この日のお天気は週間予報では雨マークで当日の深夜から雨が降り始め、会場となる用水路での児童の皆さんへの対応はどうすれば？と心配されましたが、朝を迎えた頃には太陽がさんさんと輝き、日中は春本番の様なポカポカ陽気の中、第1弾を11時よりホタル専用水路にて明世小学校の校舎、里親児童の自宅、まちづくりメンバーの自宅、以上計9個の水槽で育てたゲンジボタルの幼虫約400匹と餌となるカワニナを放流いたしました。放流には、明世小学校より吉田校長と担任の日比野先生の引率による5年生の児童の皆さん28人始め、用水路の土地所有者の福岡家、東濃地科学センター関係者、大林組JV工事関係者、中京高校の松井先生、そして水野市長、山田教育長、市民協働課、支援職員、奥村さんにご縁のある地域の方々、報道関係者の皆さんなど多数のご参加もいただきました。

放流に際し行われたホタルの里“福”看板の除幕式では、児童2名のお手伝いをいただき、メルヘンチックな看板の絵が現れた瞬間は感動の一コマとなりました。

放流会へのお礼の言葉として5年生児童の黄 裕美さんによるスピーチも、心温まるもので素晴らしいものでした。

次に第2弾は午後2時より、安藤教頭引率により、4年生から6年生までのビカリア委員12名、奥村さんと親交のある団体さん、地域住民の皆さんにより、浄化センターで育てた約70匹の幼虫と餌のカワニナを放流いたしました。



東濃弁あるある(その15) おばあさんたちのちょっとした会話…



おまあ ぞんがぁ ええまあかけ しとらっせるやなあか

あっ！ こりゃあ どおゆうどおりやった てっくらかあしに はめとった

どお あべさに はめとおでたか なんやか あんぬったようながらの
よおなつたで けども ええやなあか ほれ

こりゃあ あれやに こなあだうち あすこで うりよったやらあ やすうやっちゃ
けども よめごにおはって にまあかってまって かたみこばんこに きとるわよん



難解語の解説

ええまあかけ／よいエプロン
あべさに／反対に
うりよったやらあ／うっていたでしょう
かたみこばんこに／交互に

てっくらかあしに／裏返しに
あんぬったようながらの／逆さ向いたような模様
よめごにおはって／嫁に頼んで



明世地区まちづくり推進協議会事務局（瑞浪市役所市民協働課 集落支援員 小栗丈人（☎070-4375-9763）

まちづくりだよりは、夢づくり地域交付金を活用して発行しています。